研究者交流支援制度 報告書

＜招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar＞
１．氏名/Name
Wolfram Manzenreiter

２．所属機関・職名/Affiliation (Home Organization)・Position
University of Vienna, Dept. of East Asian Studies – Professor

３．研究期間（入国日～出国日）/Period of Stay（from the date of entry to departure）
2025/11/24 – 2025/12/03

４．専攻/Field of Research
Rural sociology, regional Japan

５．ホスト教員氏名と所属学部研究科等/Name of host teacher and affiliation
Niccolo Lollini – ガバナンス研究科

６．講演会の概要（タイトル、日時、場所、参加人数、内容）
/Outline of the lecture (title, date and time, place, number of participants, content)
日時：2025 年 11 月 26 日（水）17:00～18:50
場所：アカデミーコモン 309G
参加者：18 名
工業化社会において、地方からの人口流出、インフラの老朽化、高齢化による地域崩壊をめぐる終末論的言説は、農村地域に対する支配的なイメージを形づくってきた。これに対し、農村のウェルビーイングに関する民族誌的研究は、損失や衰退を強調するマスターナラティブに疑問を投げかけ、地域に残った（あるいは農村へ移り住んだ）人々にとって「生きるに値する生活」をつくり上げるうえでの幸福のローカルな概念や、社会的つながりの重要性に着目している。

７．研究課題、研究概要、研究期間中の活動実績 / Research Theme, Outline, Results
複数の研究者とともに、農村地域における外国人コミュニティを対象とした共同研究プロジェクトの概要を検討するための研究会を開催した。すでに多くの研究が蓄積されている大都市圏の民族的マイノリティ・コミュニティとは異なり、農村地域は統合と孤立の双方に関わる新たな可能性と課題を提示している。これらの動態は、地域や産業によって大きく異

なる。本研究会では、外国人労働者が農村日本でいかに日常生活を営んでいるのか、また地域社会が彼らの存在にどのように対応しているのかといった点を中心に議論を行った。
議論には、マンツェンライター教授、招聘研究者、同ガバナンス研究科所属の別の教員、そして長野県における外国人コミュニティを研究する高千穂大学の研究者が参加した。本研究会は、今後の共同研究プロジェクトの方向性を定め、将来的に実施するフィールドワーク候補地の選定と定義に向けた準備段階として位置づけられるものであった。